

令和 5 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： グループホーム 和や家～なごやか～

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0392100111		
法人名	株式会社 介護いわて		
事業所名	グループホーム 和や家～なごやか～		
所在地	〒028-4421 岩手県岩手郡岩手町大字一方井7-10		
自己評価作成日	令和5年8月7日	評価結果市町村受理日	令和5年10月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは田畑に囲まれ、穏やかな環境の中に立地している。目の前の田んぼの稲の成長を眺めながら利用者は季節の移り変わりを感じる事が出来ている。地域の住民の方々の協力体制も構築できている。春には地区の老人クラブの協力により、隣接する畑で野菜を育てている。トマト・キュウリ・ナスなど種々の野菜を収穫して食材として利用している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

岩手町の一方井地区に位置し、周囲に田畑が広がり民家が点在する開所8年目の事業所である。自治会と「安心・安全に関する協定書」を交わし、苗や野菜の提供など自治会・老人クラブ・近隣住民との交流が盛んである。事業所名「和や家(なごやか)」と一体の理念「笑顔」は全職員に浸透し、利用者の安心感や居心地の良さが得られている。月2回利用者職員と一緒に弁当作りを楽しんでいる。重度化対応は利用者・家族に丁寧に説明し、終末期は訪問医師・看護師・薬剤師と連携し、開所以来4件の看取り経験がある。地域の「いきいきサロン」に職員が参加し、町の「認知症対策検討会」には管理者が委員となるなど、地元から期待されている事業所である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和5年8月30日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 和や家～なごやか～

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	定期的にスタッフ全体で理念の確認を行うことで、理念に沿った業務を実行できている。また努力している。	会社の理念・基本方針を受け、開設時職員で話し合い事業所名「和や家(なごやか)」と一体となる“笑顔”を理念とした。ホール等に掲示し常に確認し合い、笑顔を心掛けた実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ感染症の流行により定期的に参加していた地域の行事に直接参加することは出来なくなったが、食を通じて交流している。利用者が地域に出向くことは出来なかったが、老人クラブの方々が野菜の苗を持ち寄り畑に移植してくれた。その際に交流できた。	自治会に加入し、総会や行事等に参加する他、地域の警察・消防・役場との連携が密である。地域で開催される「いきいきサロン」への参加や、苗や野菜の提供を受ける等、交流は活発になされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設について地域の方に理解されてきている。運営推進会議等の場で認知症の相談を受けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和4年11月から書面開催ではなく、委員の方々に参加して頂き開催が出来ている。本年度から、利用者本人、ご家族にも委員会に参加して頂いている。	コロナ禍で書面開催が続いたが、今年度から委員に利用者と家族代表を加え隣接する家で対面で行っている。活動状況やヒヤリハット事例を含む詳細な資料を提供し、委員からは地域住民との交流など活発な意見をいただいている。報告書を添えて行政へ報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂いている。困難事例が有った時は相談している。職員が岩手町認知症対策検討会に参加している。	町担当課や地域包括支援センターとは適宜情報交換等を行い、連携は密である。町認知症対策検討会(年3回)に管理者が委員で参加し「安心して住める町づくり」に貢献している。地域ケア会議に会社の担当が参加し、情報を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に研修や身体拘束等の適正化のための対策を検討する委員会を開催している。現状を踏まえて、身体拘束を行わない介護を行っている。運営推進会議においても身体拘束をしないケアに取り組んでいることを表明している。	全職員で構成する身体拘束(適正化)委員会を3カ月毎に開催し、事例研修等を通し適正な介護方法の理解に努めている。危険防止場面等でのスピーチロックでは、管理者が指導助言を行っている。居室内での転倒防止のため、ベッド回りの配置等に配慮するなどして、安全面に十分留意している。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 和や家～なごやか～

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての研修を行い、虐待が見過ごされないよう努めている。 現在は無いが、介護抵抗などがある時は皆で話し合いケアの方法を検討する。また、主治医にも相談する。 今後、身体拘束だけではなく、虐待に関しての委員会を定期的に開催する。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で意見を頂いている。 面会等でご家族が来所された際は、話しやすい場作りを心掛けている。	運営推進会議や面会来所時、通院同行時に意見や要望を聞く様に努めている。飲食店に勤務経験のある利用者の声を受け止め、「ホーム喫茶」を開設し、懐かしい音楽を聞きながら飲物を楽しんだ事がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングだけでなく、日常的に意見が言いやすいようにしている。	毎月の職場ミーティングの他、日常的に職員からの意見や要望の把握に努めている。施設設備では手すりの設置や浴室の床材を改善した。職員個々の面談等は実施していないが、今後考えていきたいとしている。なお、勤務時間等労働条件に係ることなどは対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課を行っている。 資格取得希望者のサポートを行っている。 就業時間帯等の相談に応じている。		

事業所名：グループホーム 和や家～なごやか～

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人一人の職員が、希望の研修を受講できるようにしている。必要最低限の研修は施設内で研修できるように計画している。(オンライン研修導入)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルスの流行後は交流会を行っていない。 新型コロナウイルスが5類に移行したことを受けて、今後は交流の機会を設けたい。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との信頼関係が構築出来るよう職員各々が関わっている。スムーズな対応が出来ない時は、「生活リズム・パターンシート」を使用して、行動理解の一助にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用初期は、家族と情報交換を密に行い本人及び家族の不安の軽減や要望を聞きとっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネや本人家族から現状や要望等を聞き取るようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援の介護を行っている。 一人一人の能力に応じて出来ることを行っていた。利用者同士の助け合いが出来るよう働きかけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	短時間であるが面会が出来るようになったことで、本人の活気が出てきている。		

事業所名 : グループホーム 和や家～なごやか～

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族親戚以外での交流は出来ていない。	コロナ禍で馴染みの方の来所は制約されていたが、徐々に地域の方との交流が始まっている。医院受診を家族同行で行う方は、受診後に馴染の食堂に寄って帰ってくることもある。利用者の日常の様子等を掲載した「なごやか便り」は何年も継続しており、家族との良い関係の継続に役立っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を見ながらトラブルにならないように心がけている。常に団体行動ではなく個人の時間も尊重している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後は交流が有るが、半年ほど過ぎると途絶えてしまう。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中から本人の思いをくみ取るようにしている。	殆どの方が思いや意向を言葉で表出でき、片言の方には丁寧に対応し思いを引き出すよう努めている。利用者個々の専門的な分野等を尊重し、各々の得意部分を発揮いただけるようにしている(大工、針仕事など)。職員間では、申し送りや経過記録などで状況等を伝えるようにしている。ケアプラン作成時にも、本人の意向を引き出し把握するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の情報の確認の外に、本人や家族との会話を通じて把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各々の心身の状態などを全従業員が把握できるように申し送りを行っている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 和や家～なごやか～

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを行い、話し合いながら介護計画を作製している。	担当、ケアマネ、管理者がチームを組んで3か月～6か月毎にモニタリングを行っている。利用者家族も加えてカンファレンスを行い、その上で介護計画を見直している。計画はケアマネが家族に説明(郵送の人もいる)し同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状態変化などが有った場合、申し送り機能を活用して職員間の情報共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新型コロナウイルス感染症流行により、画一の支援になっている。(外出制限等で行動制限を受けている)		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染症流行により、外出制限が有り施設外に出向くことが出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にかかりつけ医を変更する事無く受診できるようにしている。 希望が有れば変更の手助を行っている。	各利用者ともこれまでのかかりつけ医の受診を基本とし、遠隔からの利用者については変更する場合もある。訪問診療利用が5人、家族同行での通院が3人、職員同行の受診が1人である。毎月の訪問看護があり、同時に来所する訪問薬剤も利用しており、健康管理体制は整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の変化を看護に必ず伝えている。その事で早期の対応が出来ている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 和や家～なごやか～

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院の地域連携室と連携を図り対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に施設側の意向を説明している。終末期と判断された時は複数の家族と話し合いを行い、看取りを望まれた時は、訪問診療医及び訪問看護ステーションと連携しながら看取りを行っている。	入居時重要事項説明書と共に「重度化した場合の対応に関する指針」を説明している。終末期には家族の希望を確認し、訪問診療・看護と連携し開所以来4件の看取りを行った。職員の教育・研修、看取り後の振り返り・ケアも十分なされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年度は全職員を対象に急変時の対応の講習を受講する予定である(AED操作含む)		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災を想定した避難訓練は行っているが、地域を巻き込んだ訓練は行っていない。9月ごろに近隣の住民と一緒に訓練を実施する予定である。	開設時、地区自治振興会と「地域の安心・安全に関する協定」を結び、非常時の協力体制を整えている。車椅子利用者の安全避難のため、通路の舗装等を行った。ハザードマップでは危険地帯ではないが、定期的に避難訓練を実施している。	夜間を想定した避難訓練を、近隣の住民参加を得て9月に予定しており、その際に地元自治振興会との協定を再確認し、住民参加の訓練の教訓を生かして地域の協力体制を一層深められることを期待します。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設内研修を行い、職員の意識向上を図っている。不適切な言葉掛がみられた場合、その場で指摘している。(特に排泄に関する対応には注意している)	利用者は各々プライドがあり人権の尊重の観点から、不適切な言葉を使わないことを常に全職員で心掛けている。居室はプライバシーの場であり、ドアやカーテンを閉める様配慮している。特に排泄時の声掛けは不快感を与えない様留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は、本人の言葉を否定しないように心がけている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 和や家～なごやか～

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課はあるが、その時々での本人の思いを優先して無理強いにならないようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	特に衣服に関しては、利用者個人の好みがあるので本人の思いを優先するが、明らかに違和感が有る時はアドバイスをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が食材を切ったり盛り付け又は片付けを行っている。 春には山菜などの食べ方や処理方法のアドバイスをいただいている。	献立は利用者の希望を取り入れ、職員が4週間単位に作成している。コロナ禍で外食できないことから立派な弁当箱を購入し、利用者職員と一緒に盛り付け、外食気分を楽しんでいる。季節の山菜や自家菜園の野菜、地域の方の差し入れの食材を用いて調理し、利用者は準備・片付けを手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を記録している。 個人の状況に合わせた食事形態で提供している。又嫌いな物が有る時は代替を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々人の能力に応じた口腔ケアの支援を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の能力に合わせた衛生材料を使用している。 最終的にトイレでの排泄が出来るように支援している。 (おむつ対応→トイレでの排泄→パンツ使用)	排泄チェック表によりパターンを把握して、利用者の実態に応じて見守り・声掛け・誘導を行い、自立支援に取り組んでいる。入居時オムツを使用していた方が、表情や仕草のサインを読み取ることに努めた結果、パンツ使用でトイレでの排泄となった方もいる。夜間居室で3名がポータブルトイレを利用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主食に麦を取り入れ、毎日乳製品を摂取していただく。ホール内での歩行練習を行い腸の活動を促している。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 和や家～なごやか～

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に合わせた支援をしている	一週間のスケジュールを決めて対応している。原則週2回だが、希望があれば追加している。	週2回午前中の入浴が原則で、希望される方には更に弾力的に対応している。汗をかいた時等は、シャワーや足浴を行っている。入浴時はゆったりして介護職員との会話を楽しんでいる。入浴を嫌う方はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に休息出来ている。ベッドの位置等希望があれば移動している。居室の温度や寝具など調節している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者全員の薬の説明書をファイルして、職員が見やすいところにおいてある。薬の変更等があった場合は申し送りで情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々の能力に応じた作業などを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設周りで有れば希望時同行して散歩しているが、新型コロナ感染症が流行してからは出かける場所が限定されている。	穏やかな日はホーム周辺を散歩し、日光浴や外気浴を楽しんでいる。季節に応じ、春の花見、夏には葛巻高原でアイスを食べ、秋には八幡平へ紅葉狩りにドライブに出かけたりする。家族の協力でお盆に墓参りされた利用者もいた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	手元に現金を希望される方には、家族と相談して小銭入れを置いている。家族の了承の下、購入希望があれば施設で立て替えの形で購入している。歩行が可能な方は、一緒に買い物に出かけて希望の品を購入している。(衣類など)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話や手紙のやり取りは出来ている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 和や家～なごやか～

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温湿度には十分配慮している。 庭から季節の花を摘んできて花瓶に挿して季節感を感じていただいている。春先は福寿草などを鉢植えしてホールに置いている。 季節に合わせた壁飾りの作品作りの中で、季節を話題にして会話を引き出している。	日中の殆どを過ごすホールは天窓があり明るく、エアコンや加湿器で快適な温度・湿度が保たれている。季節の生花が生けられ、手作り作品が壁面に飾られたり、天井から吊り下げられ季節感が醸し出され潤いのある空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、テーブル席等ご自分の好みの場所でくつろいで過ごしていただいている。 団体でのレクリエーションなどもあるが、自由に過ごせるように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族との写真やプレゼントなどは本人の目の届くところに置いてある。	ベッドとタンスが備えられ、エアコンにより夏でも快適に過ごせる居室である。利用者は家族の協力を得て、使い慣れた小物やラジオ等を持ち込み、壁面には家族写真を飾るなど、居心地よく過ごせるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内のベッドやタンス等の配置は、個人の身体レベルに合わせて、転倒リスクを回避できるように配置している。玄関には椅子を置き靴の交換が安心してできるようにしている。手すりを設置してどこでも安心して移動できるようにしている。		